

平成25年12月18日

第117号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



森林環境整備事業（列状間伐） 増田山国有林（群馬県安中市）

（撮影者：総務課 神田盛泰）

第37回全国育樹祭「育てようみどりは未来のたからもの」

森林整備部 技術普及課

私と国有林「高崎観音山丘陵の国有林」

城山クリニック 小児科医 西野 仁美氏

第37回全国育樹祭
「育てようみどりは未来のたからもの」

森林整備部 技術普及課



皇太子殿下によるお手入れ

平成25年11月16日・17日の2日間にわたり「育てようみどりは未来のたからもの」をスローガンに「第37回全国育樹祭」が埼玉県で開催されました。

16日は、寄居町の金尾山県有林において、皇太子殿下によるお手入れが行われ、林農林水産大臣をはじめ、沼田林野庁長官や須藤関東森林管理局長も参加して、育樹作業を行いました。



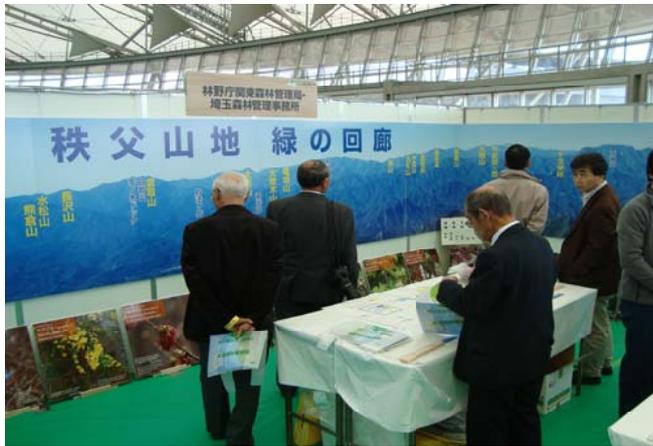
式典の風景（緑の少年団入場）

翌17日は、熊谷市の「彩の国くまがやドーム」で式典行事が開催され、全国の緑化に携わる関係者や一般参加者の約5700人が集まる中、皇太子殿下から「緑を守り育んできた技術・文化を次の世代にしっかりと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大きな使命であろうと思います」とのお言葉が述べられました。

おもてなしエリアに出展

関東森林管理局では、式典会場内に設けられたおもてなしエリアにおいて「秩父山地緑の回廊」をテーマに、埼玉森林管理事務所と技術普及課が共同で、パネル等の展示や、生きもののクイズを行いました。

展示は、ブースの壁一面に、秩父山地の大パノラマ写真や、東京大学秩父演習林からお借りした奥秩父の花々の写真、シカ被害対策の写真等を展示しました。このうちひときわ目を引いたパノ



関東森林管理局の展示ブース

ラマ写真には「どこから見た景色ですか」「この山に登ったことがありますか」などの声が聞かれました。また、子ども達をはじめ、参加者に、生物の多様性や野生鳥獣との共生に関心を持っていただくため、動物や植物の名前を問題にしたクイズにチャレンジしてもらいました。



生きものクイズにチャレンジする子ども達

今後、このような機会を捉え、関東森林管理局の事業を紹介していきます。

2013森林・林業・環境機械
展示実演会で局長が鋸断実演

全国育樹祭の記念行事として

「2013森林・林業・環境機械展示実演会」が、熊谷市妻沼西部工業団地内において開催され、74の企業が参加し、ハーベスターやプロセッサーからチェーンソーまで約850機種が展示・実演されました。

関東森林管理局からは、木暮森林整備部長が開会式に出席し、テープカットを行いました。

また、チェーンソーメーカーの展示場では、須藤局長自らがチェーンソーの鋸断実演を披露し、林大臣や沼田長官が御覧になりました。



開会式の様子



須藤局長によるチェーンソーの実演



森林・林業・環境機械展示実演会

「国有林野等所在市町村長
有志連絡協議会」を開催

総務企画部 企画調整課

関東森林管理局では、「開かれた国民の森林」の実現に向け、国有林野等が所在する地域の市町村長との意見・情報交換を目的とした会議を毎年開催しています。

今年度は、去る11月22日（金）に各地域の代表市町村長等10名と林野庁から奥田経営企画課長、馬場森林保護対策室長、関東森林管理局から須藤局長、小山次長ほか関係者が出席し、東京都江東区の東京原木会館



会議の様子（挨拶する須藤局長）



で開催しました。

会議の冒頭に、須藤局長より「国有林野事業の管理経営等に対する御支援への御礼」「森林・林業再生に向けた関東森林管理局の取組の紹介」等の挨拶を行いました。

続いて、林野庁より「平成26年度林野庁関係予算概算要求」等の情勢について、関東森林管理局からは「鳥獣被害対策への取組」「国産材の安定供給を旨とした取組」について説明を行いました。

取組等の説明後の意見交換では、各市町村長等から「木質バイオマス発電に係る木材供給」「近年深刻化している鳥獣被害への対策」「森林の除染」など、多岐にわたる発言があり、これらの考え方等について林野庁・関東森林管理局から説明するなど活発な議論がなされました。

最後に小山次長より、各市町村長等よりいただいた貴重なご意見・要望等について「関係森林管理署等と連携して期待に応えるよう努めていくこと」「森林・林業の再生に向け、民有林・国有林の連携を強化していく」と述べ、会議を終了しました。



クロマツの説明を真剣に聞く子ども達

関東森林管理局では、子ども達が森林に興味を持ち、森林の大切さなどについて知識を深めるきっかけとなるように「子ども樹木博士」の認定活動を実施しています。

11月25日(月)、安中市立細野小学校の3年生12名と4年生11名を対象に、安中市松井田町にある小根山森林公園(群馬森林管理署管内の国有林)で実施しました。

午前中は、技術普及課の職員4名が講師になって、園内の15種類の樹木について観察・説明を行いました。

もつと木のことを知りたい!
「小根山森林公園で子ども樹木博士」

森林整備部 技術普及課



羽の付いた種の観察

「ニシキギは、秋の葉っぱが真っ赤になり、とてきれいなことになることから名前が付けられ、枝に翼(よく)と呼ばれる板のような羽がついているよ」「コブシは、その実が握り拳のような形から名前が付けられ、秋になると白い毛皮のような冬芽をつけるよ」など、名前の由来や見分け方のポイントなどを説明すると、子ども達は真剣にメモを取ったり、実際に枝や葉っぱ、冬芽を手で触ったりして、特徴を覚ええました。

スギやヒノキの林では、木の太さや高さをどうやって測るのか、輪尺や測竿、ブルーメリス測高器を使って実演を行いました。

また、園内の展望台ではクロマツやイロハモミジの羽が付いた種を飛ばして、風に乗って遠くに運ばれる仕組みを観察しました。



須藤局長から子ども達へ認定書を授与

午後、展望台での昼食の後、園内の鳥獣資料館レクチャーホールへ移動し、子ども樹木博士認定試験を行いました。

見事、全員が樹木博士初段に合格し、須藤関東森林管理局長から一人ひとりに認定証が授与されました。

子ども達にアンケートを行った結果、ほとんどの子が「よくわかり、たのしかった」と回答し「何かもっと知りたくなったことはありませんか?」の質問には「もつと木のことを知りたい」「家のまわりの木の名前も知りたい」「もつとくわしく調べて、森林とか植物のことを知りたい」など、いろいろな興味が湧いてきたようです。

今月の表紙
「チェンソーによる伐採作業」



群馬県安中市の増田山外国有林で実行されている森林環境整備事業です。

写真は、チェンソーによる伐採作業で、樹齢46年生のスギ人工林を列状間伐による素材生産を行っています。

当該事業により、9・88畝の森林から960㎡の木材が生産される予定で、間伐作業が終了した森林は、明るくなり気持ちがいいです。



林野庁関東森林管理局では「もつと国有林野事業について知りたい」という皆様に、国有林野事業の役割や現状を御理解いただくとともに、国有林の管理・経営に役立てていく取り組みの一環として「国有林モニター」を募集いたします。

募集人員は70名、依頼期間は平成26年4月から平成28年3月までを予定しています。

なお、国有林モニターとしての応募資格等は、次のとおりです。

【応募資格】

福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県及び静岡県にお住まいの国有林野事業に関心を有する成人
(ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長及び常勤の国家公務員並びに現在又は過去に国有林モニターの経験がある者は除く)

【応募方法】

郵便はがき等へ必要事項を記入の上、募集期限までに下記の申込み先までご応募ください。

なお、関東森林管理局ホームページからもご応募いただけます。

また御不明な点がございましたら、担当までご遠慮なくお問い合わせください。

【必要事項】

- ① 氏名(ふりがな)
- ② 性別
- ③ 年齢
- ④ 住所
- ⑤ 電話番号
- ⑥ 職業
- ⑦ 国有林モニターに応募する理由

【募集期限】

募集期限は平成26年2月14日(当日必着) まで

【申込み・お問い合わせ先】

〒371-8508
群馬県前橋市岩神町4-16-25
関東森林管理局国有林モニター担当係(企画調整課内)
TEL:027-210-1150
FAX:027-210-1154

国有林モニターの概要・募集等については関東森林管理局ホームページよりご覧いただけます。

(<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/policy/business/monitor24.html>)

**第33回
木と暮らしのふれあい展**

東京事務所

10月5日・6日の両日、第33回「木と暮らしのふれあい展」(主催東京都・一般社団法人東京都木材団体連合会)が木場公園で開催され、東京事務所が出席し国有林のPRに努めました。

この催しは「森を育てたい。だから木を使おう。」をメインテーマに、東京都民に木とふれあえる機会を提供し、暮らしの中での木材利用を推進することを目的としています。

当日は、東京都の各木材団体等が一堂に会し、木工教室等の木とふれあう体験や木製品の展示販売、木造住宅相談、特産物の販売、アトラクション等が行われました。

一日目は台風の影響で終日強い雨にたたられましたが、二日目は天候が回復し、来場者がまちなかへ見せました。

東京事務所では、小枝のもっくん、木の実のリース等の森林クラフト体験を行うとともに、富士山の世界文化遺産登録について、クイズの出題や静岡県から提供頂いたパンフレットを配布してPRを行いました。



東京事務所ブース



森林クラフト体験

私と国有林

「高崎観音山丘陵の国有林」

城山クリニック 小児科医 西野 仁美

私が住む高崎市の城山団地は、国有林を上信越道の盛土に利用するため削り、その後群馬県が開発してきた団地だそうです。

私は水戸市の市街地で育ったので近くに山はなく、そのため観音山丘陵のような里山は珍しく、子供たちが山で遊ぶ様子が新鮮でした。

ここで子供を育てながら診療を始めて30年になります。

秘密基地作りや虫取りに熱中する子供を見て、里山の魅力に気づき「子供は自然に触れて育つことが大切だ」と実感したことから城山小学校にエコクラブを設立し、地域として活動の支援を続けています。

20年ほど前に城山団地に隣接する国有林(87林班)にレジャーランドを作る大規模開発計画が持ち上がりましたが、周辺住民の反対などもあり計画は中止されました。

団地の住人は自然豊かな環境で子育てができることを願っていたのです。

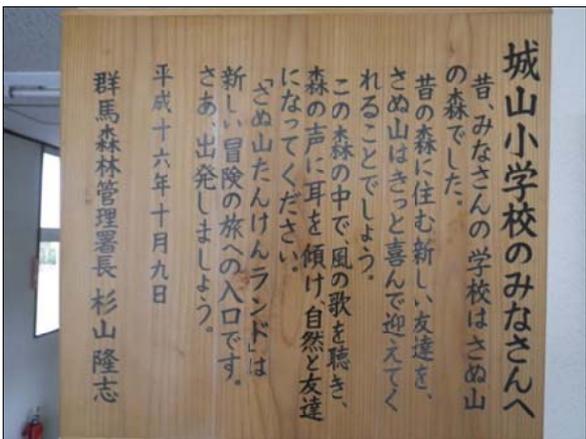
その時「反対するだけでは山の自然は守れないよ」と言われたことが、今でも心に刻み込まれています。このようなこともあり数年前に

「国有林を子供たちが遊べる森として活用する」という主旨の「遊々の森協定」を群馬森林管理署と城山小学校、南八幡小学校が締結を結び、国有林(87林班)で活動を行います。

「遊々の森」は、万葉の昔から歌に詠まれていた「さぬやま」という地名にちなんで「さぬ山たんけんランド」と命名されました。

協定に基づく活動としては、自然観察会や林業体験です。

城山小学校では、山仕事体験とし



城山小学校玄関「遊々の森協定」

てヒノキ林の枝打ちや除伐作業を群馬森林管理署の御指導いただきながら、私たちだけではできない貴重な体験を行っています。

作業後に「森が明るくなって気持ちが良い」という実感は、子供たちの胸に刻まれ、林業体験した子どもの中から山を守る仕事を目指す若者が育つことを夢見ています。

観音山丘陵の国有林はかつて高崎藩の山だったそうで、高崎市街が大火に見舞われた時、復興に山の木材が供給されたそうです。

また、入会制度のもと薪や落ち葉も供給されていましたが、戦後エネルギー利用が変わって、里山は無用のものとなってしまいました。

観音山丘陵の国有林は、国立コロニー、住宅団地、高崎市立染料植物園、群馬県立観音山ファミリパークなどに開発され、民有地は産廃や墓地などに開発されています。

残された国有林の一部は、NPO フォレストぐんま21さんが「ふれあいの森」の契約を結び森林整備を行い、子供たちも「クワガタのいる森作り」として山仕事体験を行い、今年で6回目となりました。

白衣大観音のあるすぐ下に高崎市が管理する野鳥の森がありますが、昨年、その周辺で群馬森林管理署により間伐が実施され、明るい森になりました。

作業で使用された道は、自然にや

さしい四万十方式(注)が採用され、路肩に切株が並ぶ様子は珍しい光景です。

毎年5月の連休には、丘陵の魅力を伝えようと、自然や歴史を紹介する「観音山丘陵の自然展」を地域の人を中心となって開催しており、今年で21回目となりました。

これらの地域活動を発展させる為に「観音山丘陵の自然を守るネットワークの会」を設立して、学習や自然観察を実施しています。

奥山の国有林だけでなく街の国有林がもっと大切にされるように、ささやかですが市民の力を育てていきたいと思っています。

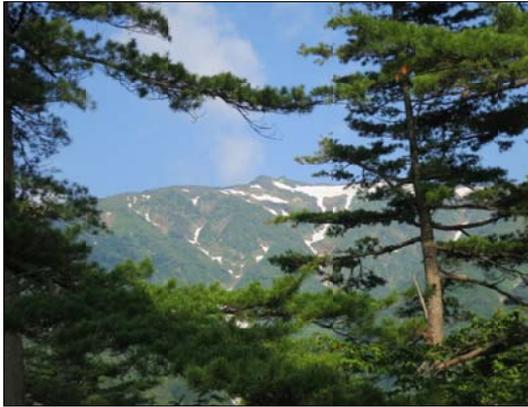
(注)山の地形を活かした線形を基本とし、施工の際に発生する表土、岩石及び根株等の現地資材を盛土法面等に活用する方式。



初体験ののこぎり作業

森づくりの最前線

会津森林管理署 南会津支署 伊南森林事務所 森林官 新井 聡祐



国体コースから三ツ岩岳を望む

伊南森林事務所は、福島県南会津郡南会津町の伊南地区（旧伊南村）にあり、約1万2百畝の国有林を管理しています。

伊南地区は、森林率が9割を超える山間地域で、地元住民は、森林から山菜やキノコなどの恩恵も受けて生活しています。

管内には、平成7年に開催された「ふくしま国体」の山岳競技コースとなった標高が2000mを超える三ツ岩岳、窓明山、家向山、巽沢山（約13kmの縦走コース）や、山伏の修行場として利用された唐倉山、大博多山といった標高が1000m級程度の低山が連なっています。

管内の最高峰の三ツ岩岳（2065m）は、昔は駒ヶ嶽と言われ山岳信仰の象徴とされて登



紅葉とのコントラストが美しい屏風岩

られていたそうです。

登山道には高山植物の群生地や湿原が点在し、尾根からは奥会津の絶景が望めるので、県内外から多くの登山者が訪れています。

山登りが苦手な方には、県指定天然記念物で樹齢800年と推定される高さ35m、目通り11mの大銀杏や、伊南川の急流が長い年月をかけ形づくった奇石・奇岩と紅葉のコントラストを楽しめる屏風岩、ドライブを楽しめる方は、尾瀬にも足を延ばしてみたいかがでしょうか。

車窓からは奥会津の展望や木々の新緑・紅葉を身近に楽しむことができます。

また、管内の中央を流れる伊南川では、昔から鮎釣りが有名



伊南川と周囲の国有林

で、初夏には各地から訪れる大勢の太公望たちで賑わいをみせます。

近くには、近年では珍しくスノーボード全面滑走禁止の「高畑スキー場」があり、腕自慢のスキーヤーが集まる、現在では数少ないスキーヤーの聖地となっています。

スキーの後は、冷えた体を温泉で暖めるのも楽しみです。

さて、当事務所の業務は、国有地と民有地との境界管理、立木の伐採箇所を調査することなどが主な業務となっており、地元の方に作業を手伝ってもらいながら業務を行っています。

手伝ってもらう方が高齢なため、今の体制がいつまで続けられるのが悩みとなっています。



紅葉と三ツ岩岳

最近では、人工林におけるクマの剥皮被害が顕著にみられ、今まで生息していなかったニホンジカやイノシシなどが見られるようになったと地元の方が話しています。

これからは、獣害被害対策も重要な業務になってくると感じています。

今年の4月に現場の最前線である森林官一年生として着任した私ですが、当支署・地域の方からいろいろ教えていただきながら業務にあたっています。

当森林官に着任し早いもので8ヶ月が過ぎました。

地域の方々や代々の前任者により育まれてきた森林をしっかりと管理・整備し、地域の要望に応えられるよう頑張りたいと思っています。

管内のいちおしスポット



すまたきょう
寸又峡

ゆめ つりはし
夢の吊橋

■ 静岡森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/sizuoka/index.html>
〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1-120
TEL:054-254-3401(代表) FAX:054-253-7829



幻想的で美しい「夢の吊橋」

ツジの花が目を楽しませ、秋の紅葉シーズンには、赤や黄色に染まる山肌と寸又川上流の大間ダムのエメラルドグリーンが絶妙なコントラストをなし、県内外から訪れる多数の観光客を楽しませています。

また、大間ダムに架かる「夢の吊橋（ゆめのつりはし）」は多くの観光客が訪れるスポットになっています。

この夢の吊橋（延長約90㍎）の名前の由来は「まるで夢に出てきそうなほど美しい幻想的な橋」あるいは「渡るのが怖くて夢に見そうな橋」ということから付けられているようで、橋の真ん中で「恋の願い」を祈ると願いが叶うという言い伝えもあるそうです。

この吊橋は、歩く部分に簡易な板が渡してあるだけなため一度に渡れる人数は10人に制限されています。

このように、自然に恵まれた地域ですが、さらに自然と親しむことができる「寸又峡プロムナード」と呼ばれるハイキングコースも設定されています。

このコースは、運動靴で歩くことができる行程約4.2㍎のコースで、1時間30分程度をかけて散策するものです。

途中、かつて当署が木材搬出のために使用していた森林鉄道のトロック軌道を歩いて、天子トンネルを通り、「夢の吊橋」を揺れながら渡り、さらに「飛龍橋（ひりゅうきょう）」を渡って、寸又峡温泉街に戻ってくるコースです。

皆様も、ぜひ一度「寸又峡 夢の吊橋」にお出かけになってみてはいかがでしょうか。

（静岡森林管理署 地域統括森林官 藤本純一）

川根本町（かわねほんちょう）は静岡県の中央部に位置し、東は静岡市、南は島田市、西は浜松市に隣接するほか、北は長野県との県境となっています。

この川根本町の中心部から北に約20㍎のところに、寸又峡（すまたきょう）という温泉地域があります。

この温泉は、美肌効果があり「美女づくりの湯」とも呼ばれ、地元にも数ある観光地の一つとなっています。

この地では、春にはヤマザクラ、ミヤマツ



恋の願い叶うといいね



<コースタイム>
○寸又峡プロムナード入口…30分…夢の吊橋…15分…●尾崎坂展望台…5分…飛龍橋…40分…寸又峡プロムナード入口

寸又峡プロムナード

発行所 関東森林管理局 編集 総務課
TEL (027) 230-1393
FAX (027) 230-1398